

荒木千里先生のご逝去をいたむ

荒木千里先生は、昭和51年7月2日、人生の大半を過ごされた京都大学医学部付属病院の、ご自身が産みの親である脳神経外科の病棟の一室で、ご家族、門下の者達に看取られながら、75年の生涯を閉じられた。病名は脳軟化症であった。

昭和44年夏、右側上下肢の麻痺が現れ北野病院に入院されたが、3週間後には症状もほとんどなくなり退院され、同病院院長として以前と同様元気に過ごしておられた。そしてご自身講演される予定であった第5回国際脳神経外科学会も間近い昭和48年9月30日夜、突然意識障害が現れ再度北野病院に入院された。当時、左側上下肢の麻痺があったがその後徐々に軽快し、同じ年の12月には独歩で退院なさった。その後はご自宅で療養なさっていたが、その間書籍も読まれ、ご自分の論文の英訳などもなさり、元気にお過ごしのようにであった。しかし今年初め頃より少しずつ病状が進み、5月25日には意識障害が増強し、京都大学脳神経外科に入院された。手厚い看護の甲斐あってか、一時小康を得られたが、肺炎を併発しようとうお亡くなりになった。7月10日、京都洛北の相国寺内にある石庭の美しい大光明寺で、雨の中、盛大に葬儀が営まれた。以下先生の思い出を記し、謹んで哀悼の意を表したいと思う。

停年ご退官後まもないある日、退官のご感想をお聞きしたところ、「停年になって一番うれしいのはこれから勉強しなくてよいことだ」との思いもかけぬお言葉が返ってきた。今も目を閉じると、教授室の北向きにおかれた机に向かっておられるお姿がありありと浮かんでくる。用事でおうかがいすると、いつでも先生は机を離れてつかつかとご自身で部屋の入口まで出てこられた。そして報告をお聞きになると、一言「よし」と言われ、すぐにくるっと向きをかえて机にかえられ、また本に向かわれるのが常であった。そこには寸刻をも惜しむというきびしい姿が見られた。そのためおうかがいするときには、できうる限り報告を簡潔にするためあらかじめ内容を整理し、お部屋に入る前に空んじてみるのが習慣になっていた。おそらく他の門下生たちも同じであったであろう。北野病院でも私は3年間お仕えした。院長として、先生はいろいろ雑事にご多忙であったが、やはり多くの時間を院長室で机に向かって過ごされ、ご自身で学会に何回か発表されたり、幾つかの論文もお書きになっていた。自らを常に鞭打って勉強なさっていたのかもしれないが、やはり学問がお好きであったのだと私には思われる。

先生は私達の身近で話をしたり、こまごました指導をなさるような方ではなかったが、論文の校閲は実に厳格で細かった。原稿の余白に細かい字で丁寧に書き加えられることもあったし、ときには、まるまる一頁が斜線を以て抹消してあることもあった。医学論文は文学的表現を避け、無用の字句が全くない明快なものであるべきだというのが先生のお考えであったと思う。

私の入局後まもなくのことである。初めて京都外科集談会に症例を報告することを命ぜられたが、あらかじめ提出した原稿はてにをはに至るまで丁寧に訂正されていた。発表が終わった後たまたまお会いしたとき、学会での演説についてお話があり、「質問にうまく答えられぬときには、その点については後刻検討し、改めて返答する旨明瞭に答えるように」とのお言葉であった。後にも先にも、発表の仕方についてのご指導はこの一回限りであった。ご退官の少し前に、学会発表に関するご自身のお考えについて小文を書かれたが、話し方、スライドの作り方など細かい点にまで触れておられ、平常は余りこまごましたことを言われぬ先生が、これほどまで細心の注意を払っておられたのかと驚きもし、果たして門下のわれわれが、お考え通りにやっていたかどうかと冷汗が流れる思いがした。

先生の話し方は常に明瞭簡潔であった。若い頃には、学会で激しく討論されたとのことであるが、私はそれをまのあたりにしたことはない。ただ一度だけ、会長をなさった第55回日本外科学会総会で次のようなことがあった。当時は、会長がすべての演題の座長を3日間ぶっつづけでやるのがならわしであ

った。某氏がかつて京都大学外科学教室で創案発表された手術術式を，自身で考案したかのごとく述べたとき，座長席におられた先生は，言葉鋭く priority は尊重しなければならぬ旨厳しく注意された。私どもは身もひきしまるのを覚えた。

先生は常々自分は良き師，良き友人，良き弟子に恵まれていると言われていたが，われわれこそ良き師にめぐりあったものと，いま感謝の気持でいっぱいである。言葉を以て指導をいただくことよりも，おそばにお仕えすることによって得た無言の教えの数々は，私達の心により深く刻み込まれている。この教えを生かし，いたらぬ身であるが少しでも先生に喜んでいただきたいものと考えている。

先生のご冥福を心からお祈りするとともに，いついつまでも天の彼方から，私達をみそなわし給うことをお願い願ってやまない。

西 村 周 郎 (大阪市立大学脳神経外科学教授)



故 荒木千里先生 略歴

明治34年 5月18日 熊本県鹿本郡来民（くたみ）町にて
出生
学 歴
大正 8年 3月25日 熊本県立中学済々黉 4年修了
9月 1日 第五高等学校理科乙類入学
11年 3月25日 同校卒業
4月 1日 京都帝国大学医学部医学科入学
15年 3月31日 同大学卒業

職 歴

大正15年 4月23日 京都帝国大学医学部副手
昭和 2年11月12日 京都帝国大学助手，医学部付属病院
勤務
4年 5月21日 愛媛県宇和島市立病院外科部長
5年 8月15日 京都帝国大学医学部副手
6年 9月 1日 大阪女子高等医学専門学校講師兼任
9月30日 京都帝国大学医学部講師
7年 4月21日 医学博士の学位を受ける
8年10月 1日 大阪高等医学専門学校講師兼任
12月31日 大阪高等医学専門学校講師辞任
11年 3月31日 大阪女子高等医学専門学校講師辞任
4月14日 脳外科の専門的研究のためアメリカ，ドイツ，フランスに留学
13年 3月 3日 帰国
16年 3月15日 京都帝国大学教授（外科学第1講座担当）
38年 6月 6日 財団法人田附興風会理事長
40年 3月31日 定年退官
4月 2日 京都大学名誉教授
4月 1日 財団法人田附興風会医学研究所北野
病院院長
47年 3月31日 北野病院院長辞任

学 会 役 員

昭和25年秋 第5回日本脳外科学会会長
27年春 第8回日本脳外科学会会長
29年 4月 第55回日本外科学会会長
35年 4月 アメリカ脳神経外科医会名誉会員
36年 4月 Harvey Cushing協会特別会員
40年 4月 日本外科学会名誉会員
11月 日本脳神経外科学会名誉会員
50年10月 日本脳神経外科学会名誉会長
51年 7月 2日 逝去，享年75才